

♪ まず唇にいつも歌を持つこと ♯

～「健やかフィールドまきば会」の取組～

毎月第3水曜日夜間(高津市民館)、第1火曜日午後1:00(新城会館)に歌声集會が開かれています。

「まず唇にいつも歌を持つこと、健全な心にはいつも太陽のようなおおらかな気持ちを持つこと。これこそが健やかな生活の基盤になる」という思いを持って、「健やかフィールドまきば会」が発足しました。



代表の増田義昭さんは、「大きな声で歌うことと、懐かしい歌を口ずさむことで、何か忘れていたような昔の大事なことを思い起こしてくれる」と、まきば会をつくりました。

歌の合間には、生活に密着した健康の話題も取り上げて話しています。

はじめの頃は、メンバーが、なかなか集まらず悩みましたが、やめないで続けていくうちに口伝えで集まってきました。



【活動の様子】はじめにウォーミングアップで軽く体操をしてから「荒城の月」で発声練習をします。視聴覚室の前面スクリーンにプロジェクターから懐かしい歌詞が映し出されています。ギターの伴奏に合わせて、日本の童謡、日本の懐かしい歌、ロシア民謡など様々なジャンルの歌声が聞こえてきます。「母

さんの歌」を歌う時には、自分たちの幼かった時のお母さんを思い浮かべていたのだと思います。しっとり懐かしそうに歌っていました。はじめは50曲ほどのレパートリーでしたが、今は300曲以上になっています。増田さんは、どんな曲でも瞬時にギターコードを奏でながら伴奏しています。

夕方6時から8時までの2時間足らずの間に、30曲ほど歌っていました。参加したメンバーからのリクエストや、初めて歌う曲も出てきます。

被災地へ、歌声のプレゼント …… 今年も11月に計画 ……

今までの活動では、東日本大震災で被災した方たちを歌声で元気づけています。平成24年11月に岩手県釜石市、平成26年10月には福島県飯舘村の仮設住宅に行って慰問しています。

♪ 歌声のプレゼント ♪

住民たちは、「ふるさとにはそっくり家が残っているのに帰れない。土地があるのに耕せない。牛が飼えない。家はどんどん朽ちていく。」と話していたそうです。みんなで『ふるさと』の曲を歌った時、自分のふるさとの風景を思い浮かべて涙している姿が痛ましく感じられたそうです。



今年も11月に歌声で元気づけに行く計画をたて、参加者を募集しています。

■問合せ 増田 義昭 TEL 080-3123-1979